

国立大学法人岩手大学 岩手大学

(審査・評価委員の所見)

- ・東北創生大学アライアンスの中での活動、COI-NEXT などの獲得も含めて、今後の展開を期待する。
- ・URA、地域コーディネーターがより地域と連携し、共創する仕組みを自治体含め体制整備した上で産業界を巻き込みリサーチパーク構想を進めていただきたい。
- ・産学官連携コーディネーターの増員によって、地域企業との連携がより強まり、共同研究などの取り組みが増えることを期待する。
- ・自治体コーディネーターとの連携は効果的であると思われるため、連携強化によりそれらの人材の活用促進に努めてほしい。
- ・計画通り、イノベーション推進リサーチパーク、岩手コーディネートネットワークを進めている。成果はこれからだが、今後を期待する。URA とは別の地域コーディネーターの活用策はユニークと感じた。
- ・「組織横断産学官連携支援システム」はその具体化へ向け進捗している様に見える。ただその展開スピードは十分とは言えない。イノベーション・エコシステムの構築も他地域の実態なども検証し、アジャイルに取り組みを進めてほしい。地域振興への具体的プロジェクト・手段が出来てきている様に感じる。

国立大学法人秋田大学

秋田大学

(審査・評価委員の所見)

- ・URA の拡充を他の補助金も念頭に進めていることが確認できた。
- ・リカレント・リスキリングとスタートアップ支援の仕組みをうまく接続させ、地域社会へのインパクト創出する仕掛けを作っていただきたい。
- ・新たに設立される「未来研究統括機構」と「地域共創機構」の活動を通じ、産学官連携の取り組みがさらに強化されることを期待する。
- ・調書ではスタートアップ企業の位置づけが不明確であったが、電動化システム強化との関係や設立目的が説明により明らかとなったので問題なしと考える。分野を特化して国際化、研究力強化を進めている大学の良い例と考える。リカレントにも力を入れている。
- ・トップ 10%論文の件数に象徴される研究力向上は順調に進捗している。交付金の使用については、よりスピード感を持って展開して欲しい。地方大学として特定分野に於ける研究大学としての成長のモデルケースを作りつつある。

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園

沖縄科学技術大学院大学

(審査・評価委員の所見)

- ・予算の現状での執行状況を考えると、このまますべてを許可することには疑問がある。
- ・プロジェクトの進捗や説明がいまいち不十分であったと感じる。
- ・重点プロジェクトの多くはすでに全国各地で実証実験が始まっているものであり、OIST の取り組みの特徴が理解できなかった。
- ・R6 年使用実績がほとんどなく、R7 年予定も含めてほとんどがキャンパス内再生エネルギーインフラ強化に使用されることとなっており、当初の目的の地域振興につながるか、疑問。
- ・三菱商事・沖縄電力等大手との連携が中心に見える。
- ・地域経済との協業（再生可能エネルギーインフラの強化とデジタル化・公共交通分野のデジタル化など具体的な事業展開）の進捗が遅い、又外部資金の導入実績にも不安が残る。初年度であるからもう少し状況を見ていく必要があるが、R7 年分の全額配分には疑問が残る。
- ・本プロジェクト資金の活用スピードが遅い。J-Peaks 資金との棲み分けもしっかりできているか不安がある。
- ・事業ベースではない地域への幅広い貢献について関心が感じられない。
- ・予算執行に問題がある。改善が必要。

国立大学法人北海道国立大学機構

帯広畜産大学

(審査・評価委員の所見)

- ・北海道国立大学連携機構を通じた自治体との関わりも確認できた。
- ・機構と連携したARAや博士人材育成を進めていただきたい。食料安全保障・気候変動を含めた農学に関する専門人材の育成、企業との共同研究にも期待する。
- ・実証農場を活用して、地域の企業などと共に進める共同研究・開発をさらに推進し、その成果が実際のビジネスにつながることを期待したい。
- ・共同研究はマネージメント強化により伸びる余地が大きい。コンソーシアム等を活用し、大型共同研究を増やすように進めていただきたい。
- ・全てのKPIに於いて計画を上回る実績を上げている事は評価出来る。地域産業との産業共創の拡大に力を入れて欲しい。機構内3大学、他大学、他機関との連携の好事例を積み上げて欲しい。

国立大学法人金沢大学

金沢大学

(審査・評価委員の所見)

- ・人文社会科学の金沢大学独自の巻き込みの方向性を伺っている。新たな人文科学のあり方も含めて、今後も進展していくことを期待する。
- ・能登をはじめとした災害復興と観光振興の取り組みを支援する取り組みを進めていただきたい。
- ・観光振興プロジェクトの実施を通じて、能登地域の復興が進むことを期待する。
- ・ツーリズムの促進に加えて、地元産業が観光に関わる新商品を開発するなど、地域経済の活性化につながる取り組みも有効だと思われるため、併せて推進していただきたい。
- ・観光科学を中心に、地域復興を図っている。当初の目標通り進めている。観光科学による成果は実際の成果把握が難しいが、地域復興として期待する。地域連携コーディネーターを大学で雇用している点は持続性として若干不安がある。
- ・トップ10%補正論文比率や外部資金獲得額など基本目標項目は着実に向上している。被災地の経済復興に対する地域社会との連携についても着意をもって（将来の地域のあり方を展望して）推進している。J-PEAKS との相乗効果を更に発揮して欲しい。

国立大学法人鳥取大学

鳥取大学

(審査・評価委員の所見)

- ・地域での企業との共同研究も拡大していることは素晴らしい。
- ・スマート農業に関する取り組みについて、リカレント・リスキリングを進めていただきたい。
- ・県や産業支援機関と連携し、事業化の核となる具体的な研究シーズと企業のマッチングの場を設けることで、産学官の共同研究開発をさらに活性化させていくことが望まれる。
- ・羅針盤の目標は明確で、昨年から大学経営戦略室を中心に産学連携を進めている。説明にあったようにスマート農業について組織的に大型研究を増やすように進めていただきたい。研究力強化についてもさらに進めていただきたい。
- ・事業初年度の実績は十分に満足いくものとは言い難いが、各項目で今後成果を上げる為の方向感は示されていると考えても良いと思う。地域連携プロジェクト及び産学連携分野で実績も出始めている。

国立大学法人岡山大学

岡山大学

(審査・評価委員の所見)

- ・極めて順調に進んでいる。
- ・本事業を活用いただいている、更に邁進していただきたい。
- ・ご提案の収益事業の柱として挙げられているデジタルサイネージ広告のみで、今後必要となる資金を十分に確保できるのかについては懸念が残る。
- ・地域活性化の大きな原動力となっている製造業、特に中小企業にも目を向けた取り組みの展開に期待する。
- ・地域大学の連携による地域課題の解決に向けた取り組みが着実に進展しているように見受けられ、今後も継続的な展開を期待したい。
- ・J-PEAKS による研究力強化とあいまって、本事業でおかやまテックガレージや県立大との地域活性化を計画的に進めている点を評価したい。
- ・研究力の強化、社会実装・イノベーション、地域貢献とも着実な実績をあげている。基盤の整備についても J-PEAKS との連携により進捗している。地域大学のリーダーとしてスピード感を持って実績を積み上げて欲しい。

国立大学法人新潟大学

新潟大学

(審査・評価委員の所見)

- ・極めて順調に進んでいる。
- ・UA 制度について着実に進めている点を評価できる。コメ問題に関しては食糧安全保障上も極めて重要、今後の高度人材育成、リカレント・リスキリング含めチャレンジしていただきたい。
- ・UA 制度の継続に向けて外部資金の確保を目指しているとのことだが、資金獲得に向けた具体的な方策が明示されておらず、先行きがやや不透明。
- ・外部資金の獲得状況によって UA の人数を増減させるとされているが、UA 制度は成果が出ている効果的な制度であるため、実績のある有能な人材の定着を図るための制度設計についても検討いただきたい。
- ・当初提案していた UA 人事制度改革や共創イノベーションプロジェクトなどを推進している。予算もそれに集中している。大学の事務職員の改革につながることを期待。
- ・本事業採択時に申告された経営力強化、地域共創、グローバル産学官連携などの各分野は順調に進捗している。J-PEAKS 採択による相乗効果を一層具体化して欲しい。レーダーチャートで説明される J-PEAK との棲み分けは明確。「コメ」実証事業は興味深い。大学経営改革の方向性も首肯される。